

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172101368
法人名	社会福祉法人 新生会
事業所名	グループホーム さくら・さくら
訪問調査日	平成 20 年 2 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 8 日
評価機関名	旅人とたいようの会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20 年 2 月 29 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172101368
法人名	社会福祉法人 新生会
事業所名	グループホーム さくら・さくら
所在地	大垣市北方町5丁目35番地 (電話) 0584 - 77 - 0584
評価機関名	旅人といよの会
所在地	大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成20年2月29日

【情報提供票より】( 20年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日
ユニット数	1 ユニット 6 人
職員数	8 人 常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 4, 3 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 400000	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食		おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

### (4) 利用者の概要( 2月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 89 歳	最低 83 歳		最高 99 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	井口クリニック 香田歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人の長い歴史の経験から、利用者の目線にあった大きな窓・緩やかな階段・手すりの位置・自助具使用の空間など試行錯誤した工夫が随所に見られる。利用者主体の生活は一人ひとりの生活背景や自身の暮らし方を表出させる職員の向き合い寄り添う姿勢がある。又職員の研修は体験学習・海外研修に始まり段階別の研修体制が徹底している。法人全体が情報を常に取り入れ自ら学ぶ姿勢を大切にし、全体でデスクッションしたり、専門家の指導助言を受け日常の学習を大切にしている。サテライト特養・デイサービス・グループホームと自由な往来ができ地域住民の一員として生活が営まれている。ホーム主催の桜祭りには近隣の施設や地域住民がそれぞれの役割を持って参加し楽しい交流の場となっている。家族に対して終末期のあり方を「生と死を考える会」で勉強する機会を設けている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での主な改善課題は特にない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価用紙に書き込み検討し、リーダーがまとめ完成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開設準備からのメンバーに家族・行政担当で定期に開催している。日常の暮らし・レクリエーション・行事の紹介や報告をすると利用者の知らない一面を知り驚く家族もある。多職種のメンバーで専門的な助言があったり、外部評価の報告意見も聞いている。地域交流スペースの活用についても更に多機能性を活かす意見交換が活発である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問は頻回でその都度話したり、茶話会・無記名アンケート・意見箱で意見苦情などを聞いている。「玄関に靴べらがあるといい」の意見に苦情メモ・リスクマネジメントシートを活用し、即準備し公開している。第三者評価委員による相談もあり、常に多方面から問いかけ質の向上・運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「サンビレッジ大垣通信」を自治会長を通じ配布している。保育園児・中学生と交流したり・ホームコンサートに誘われたり・芋ほり・菖蒲祭りに住民と一緒に参加し廃品回収にも協力している。住民手製の紫蘇ジュースや餅米の持参もある。近所の焚き火の煙を火事かと思い心配して飛んできてくれたり地域交流が盛んである。「健康教室」を開催したり「子ども110番」にも登録している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の運営理念を基本に、ホーム独自の理念「出逢い・ふれあい・響きあい」を目の届くところに掲示し、家庭的な環境と地域住民と交流しながら支えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はケアの判断基準の基として、採用時には利用者の立場にたって体験実習したり、ミーティング・会議で「大切なもの」として共有し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「サンビレッジ大垣通信」を自治会長を通じ配布している。保育園児・中学生と交流したり、ホームコンサートに誘われたり、芋堀り・菖蒲祭りに住民と一緒に参加し廃品回収にも協力している。住民手製の紫蘇ジュースやもち米の持参もある。近所の焚き火の煙を火事かと思いきや飛んできてくれたり地域交流が盛んである。「健康教室」を開催したり「子ども110番」にも登録している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「自己評価」のみでは見落としがちな判断を外部評価で、更にサービス・職員の質の向上に取り組む姿勢がある。今回の評価も全職員が書面に書き込み改善対策に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はメンバーに家族・行政等で定期に開催し、日常の暮らし・レクリエーション・行事の紹介や報告をすると、家族も知らない事に驚きの声もある。多職種のメンバーで専門的な助言(小学生の福祉研究について)もある。外部評価を報告しモニター役になってもらっている。地域交流スペースの活用(健康予防相談や情報交換・子育てサロン)なども話合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所高齢課担当者とは、相互に介護保険制度の情報について確認しあいサービスの質向上に取り組んでいる。権利擁護についても、説明したり入所後も終の棲家とするのではなく、在宅復帰を念頭にケアし在宅に戻った事例もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は頻回である。訪問時には利用者の様子をこぼで伝えることを基本とし、利用者の良いところを話すとき驚きの声を聞くことがある。遠方の家族には報告・案内など電話で知らせている。金銭報告もサインで確認している。職員の移動については職員自身が挨拶をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	茶話会・無記名アンケート・玄関の意見箱などで意見・苦情を聞いている。「玄関に靴べらがあるといい」の意見に苦情メモ・リスクマネジメントシート等を活用し玄関の見やすい位置に公開している。第三者評価委員による「よろず相談」もあり、常に多方面から検討し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来異動はないが、法人内の異動などやむを得ず異動をする場合は、利用者の様子をみながら一人ひとりの状態を見極め職員が対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の階層別研修が充実しており、個々に応じた学ぶシステムが構築している。法人内の認知症ケア委員会・研究会・テキストによる勉強会他・施設・海外研修等、定期的な学習を通じ学ぶ機会が多く、職員の個別研修の希望も自由である。基本理念を全職員が共有し、地域密着サービスの質向上を目指している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や関係者の見学・研修を受け入れ交流を図っている。家族には、利用契約時にその趣旨と法人の使命を説明し同意を得ている。県の協議会に加入したり、地域の施設・大学・学識経験者等交流しながらサービスの向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の不安をなくすよう、デイサービス・ショートステイから入所したり、自宅とホームを行き来したり、家族の訪問を多くしたり建物や職員や利用者同士が馴染めるよう家族と連携を図っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりの出来ることをアセスメントし、日常生活で利用者が達成感を感じられるよう取り組んでいる。梅干作り・懐かしい手料理等「出来にくい時どうしたらいいか」手探りしながら自信につないでいる。日ごろの会話からことわざや言い伝え等の知恵を人生の先輩として尊敬し教わっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>今日の装い・食事の好み・行事・レクリエーション参加等、声をかけ選択肢を広げ一緒に決定できる場面を作っている。思いの表出しにくい利用者には向き合える時間を作り(夜間・居室一人のとき)寄り添いゆっくりたずねている。キリスト教信者の利用者は教会に出かけたり、又コンサートの誘いにもタクシーで出かけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の思いを聞き、看護師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・栄養士等多職種の専門的なアセスメントを入れて介護計画を作成している。職員全員で介護計画をパソコン入力し管理している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>業務日誌は全職員が電子手帳で共有している。3ヶ月毎の見直し時期を担当者別の表にし、終了後チェック表で見直し確認している。家族の要望、体調変化の際は主治医もカンファレンスに加わり見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	サテライト特養・ディサービスと併設の利点を活かし、利用者の身体状態にあわせ移動し入浴や行事参加など多機能なサービスを利用している。又健康教室・介護相談・子育てサロン・小学生夏休み自由研究・ハザードマップ作りなど地域交流スペース活用を充実する計画がある。		健康教室・介護相談の常設窓口の設置・子育てサロン・アロマセラピーなどボランティアの受け入れにも積極的である。当施設を活かした多機能性を更に期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医の確認と、入所後の医療機関との選択を確認をしている。月2回程の法人の医師による定期診察のほか、通院は家族の役割として担ってもらっているが、都合悪い場合は職員が代行している。必要に応じ、母体の認知症専門医・臨床心理士等の協力機関医と相談助言指導が受けられる体制がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方は入所時に説明し確認書を交わしている。状態の変化には再度医師・看護師・介護職員など多職種のカンファレンスで方針を共有している。家族に対しても「生と死を考える会」で勉強する機会を設けている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導・失禁などさりげない声かけをしている。個人情報書類は事務室の棚に片付けている。個人のプライバシーに関する記録のファイルの背には氏名を書かない配慮をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今までの暮らしを基盤に、朝寝坊したり、卓球したり、読経したり、居室でくつろいだり一人ひとりのペースを大切に生活がある。化粧し、好きな装いで外出している。レクリエーションも、選択肢を多くし強制せず楽しむ支援をしている。行きつけの美容院に出かけたり、夕食前に食前酒など楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けまで利用者同士で役割をもち、職員と一緒に「洗う・拭く・片付ける」と手際よく自然な動きがある。職員も一緒にテーブルで楽しい会話が弾み、水分摂取に気を配る声も聞かれた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番・湯温は利用者の希望に合わせ、回数も週3回以上の入浴に心がけている。季節に合わせてたゆず湯、菖蒲湯、バラ湯等個浴でゆったりできる。個浴が危険な場合は多機能性を活かしディサービスの浴槽を利用することもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の思いを居室で個別に聞いたり、文章で訊ねたり、一人ひとりに確認しながら個々の力に合わせて楽しみごと、卓球・習字・法話・カラオケ・ラジオ体操など、又買い物や外出など施設内の男性職員と関わるなど楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外部との交流が自由にできるよう又生活の幅が広がるよう、教会に出かけたり、寿司やに出かけたり、テラスでお茶をしたり、コンサートに、ドライブ買い物散歩と、利用者へ声かけながら外出を促がしている。外出しないときは窓を開け空気の入替えで寒さ暑さを肌で感じることをしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は正面玄関・グループホーム玄関すべて開放し自由に出入りができる。ディサービス、サテライト特養にも気軽に行き来でき訪問者も同様である。居間から利用者の行動が確認できる。又ディサービス・特養・全職員による見守りの協力体制がある。夜間はセンサーがありPHSで確認できる。考えられるリスクは想定して検討し事故防止に努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練をサテライト特養・ディサービス・グループホーム合同で実施している。訓練ごと想定の設定を変えて、さまざまな避難方法や器具の使い方も学習している。運営推進会議で話しあい家族・地域住民の参加も促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食のみ特養の配食を受け、盛り付け配膳を利用者と一緒をしている。栄養バランスは母体の栄養士の指導を受けている。水分摂取は野菜ジュース・コーヒーなどこまめに用意したり、食欲低下時は好みの食材を身体状態に合わせた形態にして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から階段(緩やか)とエレベーターで昇り、居間を中心にして左右に3部屋ずつの居室がある。間接照明と大きな窓で桜並木・伊吹山を見ることができる。手すりは最小限にして自助具を使い、畳の和の空間・ソファの洋の空間と、家庭の感覚でゆったりできる。居室から出た位置にも、一人になれる居場所に椅子とテーブルがある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外はすべて自宅の馴染みの物で生活スタイルを作っている。自作の人形・色紙や小物いっぱいの楽しい居室、畳を入れ仏壇や鏡台と落ち着いた雰囲気のある居室は季節の衣服が衣桁にいっぱいその人の好みが見れている。表札はないが入り口に利用者自身が好みの飾り付けで確認している。職員は家族に日常生活を話しながら居室作りの大切さを提案し、利用者と家族で居室作りをしている。ベットに休んだまま外景を見ることができる。		